

造林コスト削減等に向けた技術開発の取組

～「低コストモデル実証団地」の設定経緯～

森本 明（林野庁九州森林管理局森林整備部 技術普及課）

戦後植えられた森林は、主伐期を迎えており、主伐後の再造林を着実に進めていくためには、造林コストの削減等が不可欠です。そこで、国の先導的な役割を発揮するため、熊本県人吉市に所在する広大な約10haの国有林のフィールドにおいて様々な試験研究等を実施し、その成果等を広く林業関係者と共有し効率的な森林施業を目指すツールとすべく、その経緯を紹介します。

【経緯】

平成28年2月に本企画の前身となる「中苗・コウウザンプロジェクト(仮称)」を企画立案。

同年5月キックオフ会議後、広大な伐採跡地をフルに活用するため、更に各研究機関等への参画の呼びかけを行い、大規模な試験地を再立案。

平成29年「低コストモデル実証団地～次世代造林プロジェクト～」を正式名称として現在に至る。

「低コストモデル実証団地全景」(H28.9.6)



【着眼点】

今後、主伐・再造林の増加が見込まれる中、確実な更新を図っていくためには、

造林コストの削減と造林の省力が不可欠

林業の低コスト化に関して、先導的な手法を積極的に導入・検証し、
低コスト造林のヒントとなるモデル林を造れないか！

国有林、各研究機関や大学等と連携・協力しながら
様々な視点や意見等を参考に取り組み、広く林業関係者へ情報共有できないか！

【取組内容】

シカ被害への対処を含めた造林初期の施業の低コスト化に向け、次の視点で課題を設定し、実証地をゾーニング。

- ①大きめのスギ苗木(中苗)を使う。
- ②下刈りを省力化する。
- ③スギの品種を変える。
- ④低密度に植栽する。
- ⑤樹種を変える。 etc

「成長の早いとされるスギ苗木を活用した中苗の育成状況」(H29.1.26)



※詳細については、九州森林管理局ホームページにて「低コストモデル実証団地成果集」で検索するとご覧いただけます。